

見て、触れて、食べて学ぶ農業体験

東都生協では、産地・メーカー交流訪問や農業体験を通じて、生産者と交流しながら食と農を近づける活動を進めています。土に触れ、作る苦労や収穫の喜びを体験して、食べ物への感謝の気持ちを育むことは「農から学ぶ食育」の機会にもなっています。

やさと体験田で田植えから稲刈りまで ～JAやさと米作り体験2025

やさと体験田は、JAやさと(茨城県石岡市)の協力の下、組合員が自ら米作りを体験する企画として1989年にスタートし、今年で37年目を迎えました。全8回の活動を通して、米が育つ過程を学びながら、生産者や参加者との交流を深め合える、東都生協の人気企画です。

化学合成農薬や化学肥料を使わず、20アール(2反※)の田んぼで、ほぼ手作業で米作りを行っています。2025年度は25組68人が参加し、収穫量は624kg(約10俵)でした。 ※2,000㎡(約45m×約45m)



田植え



メッセージ

NPO法人アグリやさと 代表 柴山進さん

あと何年かしたら米を作る高齢農家が引退を迎え、担い手不足になって田んぼの維持が難しくなり、再び米問題が起こりかねない状況にあります。国の農業政策「米の担い手をどうするのか、田んぼをどう守っていくのか」——この問題を消費者の皆さんにも知っていただきたいと思います。

とても楽しかったです。毎回、お昼ご飯もおいしかったです。尻もちをついちゃったので、シャワーに入れた良かったです。また、来年もぜひ参加したいです！ありがとうございました。(小学4年生男子より)

「JAやさと米作り体験2025」カレンダー

草取り



5月上旬	田植え
5月下旬	草取り
6月上旬	草取り
6月下旬	草取り
7月下旬	草取り
9月下旬	稲刈り
9月下旬	脱穀
10月中旬	収穫祭



稲刈り

自分のように東京生まれで田んぼや畑に縁遠かった方は、一度参加すると、土の匂いや感触、農業の大きさや醍醐味が味わえますよ。日本の農業が危機に直面している今こそ、体験してほしい企画です。

参加者の感想

「野菜ができるまでを学ぼう！」

～(農)埼玉産直センター

キャベツの収穫



畑づくりから収穫までを体験する農業体験企画を2025年10月から2026年1月にかけて全3回実施。生産者の説明を受けながら、除草や畝づくり、苗植え、種まき、土寄せなどの作業に取り組みました。収穫時には、長ねぎやブロッコリー、キャベツ、小松菜、ほうれん草、かぶ、大根、白菜、リーフレタスなど、たくさんの野菜が実り、参加者は収穫の喜びを味わいながら新鮮な野菜を持ち帰りました。

参加者の感想

野菜ができる過程を学びたかったので参加しました。私は今までなかなかそのような機会がなかったので、今回参加して、大変有意義な時間を過ごすことができました。

「見て！触って！味わう！トマト交流会」

～(農)埼玉産直センター

「百年トマト」の産地、(農)埼玉産直センターの協力を得て、「見て！触って！味わう！トマト交流会」を開催しました。2月は、おいしいトマトを育てるために欠かせない葉かき作業を体験。3月は、実際に東都生協へ出荷されるトマトの収穫を行いました。収穫後は、取れたてのトマトを使ったトマトカレーをみんなで味わい、生産者との交流も楽しみました。最後には「修了証書」が手渡され、参加者からは笑顔があふれていました。

参加者の感想

微力ながら生産のお手伝いをし、収穫、トマトカレー作りまでできたのは、とても良い経験だったとともに、子どもにとっても素晴らしい食育体験になったと思います。企画していただき、ありがとうございました！

募集

来年の2月と3月にも「見て！触って！味わう！トマト交流会」を開催予定です。組合員活動情報紙「ワオ」をチェックしてくださいね！



葉かき作業
下葉を取り除いて、
風通しを良くする



今月のつばやき

新米の季節。つやつやのご飯はそれだけでごちそうです。わが家ではまず塩おにぎりにして楽しめます。少し大きめのおにぎりを口にほおばると、ごはんの甘味が感じられ幸せな気持ちになります。暑い中の作業は大変だっただろうと考えながら、感謝の気持ちでいっぱいになります。一年間おいしくいただきます。(Y.K)

お問い合わせ

産地直結ひとすじ。いちばん頼れる生協に。

総合企画室

☎03(5374)4756 月曜～金曜日：午前9時～午後4時
E-mail: kumikatsu@tohto.coop

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸5-4-42 さんぽんすぎセンター2階

東都生活協同組合
CO-OP